

大きな文字 二色刷り 明鏡国語辞典

第三版

大きな字で読みやすい!

2020年12月に刊行され、好評を博している『明鏡国語辞典 第三版』に大型版が登場。通常版と比べ、字は約1.5倍に拡大。あらゆる読者にとって読みやすい国語辞典をめざしました。

原寸比較

約
1.5倍!

あやか・る(一)肖る(一)自五 幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを念じて幸せな人と同じことをする。二彼の幸運「長生きの祖父」に「りたい」
三「人類は科学の恩恵にあやかってきた」など、受ける・かかわる意の「あずかる(与ふ)」と混同するのは誤り。
可能あやかれる(四)あやかり

【通常版】
明鏡国語辞典
第三版

あやか・る(一)肖る(一)自五 幸せな人の影響を受けて同じように幸せになる。また、幸せを念じて幸せな人と同じことをする。二彼の幸運「長生きの祖父」に「りたい」
三「人類は科学の恩恵にあやかってきた」など、受ける・かかわる意の「あずかる(与ふ)」と混同するのは誤り。
可能あやかれる(四)あやかり

大きな文字 二色刷り
明鏡国語辞典
第三版



北原保雄(筑波大学名誉教授) [編]

2021年6月刊行
B5判・函入り・二色刷り・1,922頁
ISBN978-4-469-02123-3

定価6,710円(本体6,100円+税)

☆【通常版】『明鏡国語辞典 第三版』のご紹介

明鏡国語辞典

第三版 北原保雄 [編]

- 言葉の正しい使い方を詳しく解説
- 改まった場面で使える言葉がわかる「品格」欄
- 画数の多い漢字をズームアップ
- 漢字の書き分けや読み分けを解説
- 便利な索引付き

2020年12月刊行
B6判・函入り・二色刷り・1,922頁
ISBN978-4-469-02122-6
定価3,300円(本体3,000円+税)



大修館書店

面本
紙見 (原寸大)

大きな文字 二色刷り

明鏡国語辞典

第三版

いやまさーいらっし

二色刷り、大きな文字、ゴシック体……
あらゆる読者に読みやすく、探しやすい紙面

新語なども多数収録
第三版では約3500語を増補

どやがお【どや顔】
「新」いかにも誇りげな顔つき。したり顔。得意顔。成功に―をする。▼「どや」は「ど」の意の関西方言。
「昇進がかない、―に振る舞う」
「時を得顔おえが」

エスディー・ジーズ【SDGs】
「名」環境と開発問題に関する世界目標。貧困や不平等のない、気候変動に対応した持続可能な社会の実現のため、二〇三〇年までに達成すべき行動計画を「一七のゴール（目標）」と一六九のターゲット（具体的な目標）で示す。持続可能な開発目標。▼二〇一五年に国連総会で採択。Sustainable Development Goals (SDGs)。

いやまさる【弥増さる】「自五」増える。「やます」の。「人恋しさが―」
いやーます【弥増す】「自五」増える。「寒さー今日このころ」
いやーみ【嫌み(嫌味)・厭味】「名」さへ不快な感じや思いを表す。「―ま―」
「―な人」「しきりに―を言う」「―たつて―」
いやみたらしい【嫌みたらしい】
「味は当て字。「いやみ」とかな書きも嫌みに思われるさま。嫌みたらしい。―を―文句を並べる」
いやーしい【嫌らしい】「形」①いかにもいやだと感じさせるさま。「―や―」
「―言い方を―」
②言動が性的にみだらなさま。「―目つきで見る」
「―かな書きも多し。派生「け／さ／がる」
書き方」
イヤリング【earring】「名」耳飾り。イヤリング。
いやーう【畏友】「名」尊敬している友人。また、友人の敬称。「我が―山田君」
いやーいよ【愈】「副」①よりいっそう程度が高まつて、最終的な段階に至るさま。「―ますます」。「―雨は―激しさを増してきた」
②時を経て、ついに重大な局面に至るさま。「―決断すべき時がきた」「―明日から大会が始まる」
③事が進んで、確かさが決定的になるさま。「―総辞職は―避けられない情勢だ」
「―愈々」「―弥々」とも。
いーよう【医用】「名」医療のために使用すること。「―工学」「―画像処理」
いーよう【威容】「名」威厳のある立派な姿。「―を誇る霊峰富士」「―王者の―を保つ」
「書き分け」威容は威厳のあること。「威容」はすべからぬこと「注目」がつうが意味が近い統一。「威容」を使うことも多い。
いーよう【移用】「名」他社変換出予算に定められた経費を各部署間または同一部署内の項目間で融通し合っていること。
いーよう【偉容】「名」すべからず立派な姿。「―峰を連ねる日本アルプスの―」
「書き分け」威容は「偉容」より「異様」
「形動」ふつとは変わっているように。「―一種―な雰囲気」「音が―に反響する」
いよーかん【伊予柑】「名」ミカン的一种。果皮は

いーたい色で、甘ずっぱい実はある愛媛県で多く栽培される。「よく」
「意欲(意欲)」「名」おと思ふ積極的な気持ち。「―仕事―当選に―を見せる」「創作―に燃え―としても使う」
いーてき【意欲的】「形動」物事をなすにげようとするさま。化に―だ「―に取り組む」
いーらい【以来】「名」①基準となる時から(今に至るまで)「またある出来事を契機としてその時から(今に至るまで)ずっと」
「七〇日―と微熱が続いている」「終戦―六十数年が経過した」「卒業―二十年ぶりの再会」
「使い方」↓以後②「口風」これから先。以後。今後。「―、気をつけたまへ」
「基準の時点を発話時において、副詞的に使う」
いーらい【依頼】「名」①他社変換あることをしてくれよう人に頼むこと。また、その内容。「医者に往診を―する」「執筆の―を―に―を断る」
②「目下」あること。「―の―を頼む」
「頼む」
いーらい【苛】
「動」①思い通りにならずあせって感情が高ぶるさま。「―の皮膚が粘着する」
②皮肉や粘着するさま。「―の―が―する」
「感情が高ぶって」
「注」アクセントは「いーらい」
いーらい【答え】
「名」自社変換「こたえ」として―する余が「鶴外舞姫」
「動」
いーらか【葺】
「名」かわらぶきの屋根の頂上の部分。「―の波」
◎葺を争う 家が葺の高さを競うようにびっしりと立ち並ぶ。

画数の多い漢字をズームアップ

いーら【いーら】
「名」自社変換「こたえ」として―する余が「鶴外舞姫」
「動」
いーら【葺】
「名」かわらぶきの屋根の頂上の部分。「―の波」
◎葺を争う 家が葺の高さを競うようにびっしりと立ち並ぶ。
いーら【いーら】
「名」自社変換「こたえ」として―する余が「鶴外舞姫」
「動」
いーら【葺】
「名」かわらぶきの屋根の頂上の部分。「―の波」
◎葺を争う 家が葺の高さを競うようにびっしりと立ち並ぶ。
いーら【いーら】
「名」自社変換「こたえ」として―する余が「鶴外舞姫」
「動」
いーら【葺】
「名」かわらぶきの屋根の頂上の部分。「―の波」
◎葺を争う 家が葺の高さを競うようにびっしりと立ち並ぶ。

改まった場面で使える
言葉がわかる「品格」欄

大修館書店 〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 TEL03-3868-2651 FAX03-3868-2640 https://www.taishukan.co.jp/

書名	定価	ご注文数	番線印
大きな文字 二色刷り 明鏡国語辞典 第三版 978-4-469-02123-3	税込6,710円(本体6,100円+税)	冊	
注文書 お名前	ご記入日	年 月 日	
ご住所 〒			
電話番号 ()			

*お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。